

第2節 全体計画の作成

1 全体計画の基本的な考え方

キャリア教育は、一人一人のキャリアが多様な側面をもちながら段階を追って発達していくことを改めて深く認識し、児童がそれぞれの発達の段階に応じ、自己と働くことを適切に関係付け、各発達の段階における発達課題を解決できるよう取組を展開するところに特質がある。そして、これらのキャリア発達を促進するためには、必要とされる諸能力を意図的・継続的に育成していく必要がある。

また、道徳、総合的な学習の時間、特別活動は、各教科の学習で学んだ成果を様々な体験活動や話し合い活動等を通して深化・発展、統合させたり、逆に、その成果を各教科等の学習に還元し反映させたりするというねらいをもっている。このため、そこで展開される職業や進路に関連した学習活動は、キャリア教育を進める上で、直接的かつ中核的な取組として最も重要な役割を担うものであり、その計画等を改善、充実することが求められる。

このように全体計画は、自校のキャリア教育の基本的な在り方を内外に示すとともに、学校の特色や教育目標に基づいたキャリア教育の教育課程への位置付けを明確にするものであり、キャリア教育を体系的に推進していくために欠かせないものである。また、各教科等におけるねらいや指導の重点項目を確認し、共通理解を図ることもできる。

全体計画に盛り込むべき項目の例を以下に示す。

① 必須の要件として詳細に記すもの

- ・各学校において定めるキャリア教育の目標
- ・教育内容・方法
- ・育成すべき能力・態度
- ・各教科等との関連

② 基本的な内容や方針等を概括的に示すもの

- ・学習活動
- ・指導体制
- ・学習の評価

③ その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの。具体的には、例えば、以下のような事項等が考えられる。

- ・学校の教育目標
- ・地域の願い
- ・当該年度の重点目標
- ・教職員の願い
- ・地域の実態
- ・地域との連携
- ・学校の実態
- ・中学校との連携
- ・児童の実態
- ・近隣の小学校との連携
- ・保護者の願い

2 各学校において定めるキャリア教育の目標

各学校においてキャリア教育を推進するためには、児童のキャリア発達課題及びその解決のために育成すべき能力・態度の理解と、キャリア教育の推進の要ともなるべき校内組織を確立することが不可欠である。しかし、各学校がキャリア教育を推進するに当たっては、まず、児童の生活や意識あるいは家庭、地域の実態などから、自校の児童のキャリア発達を促す上で、何が課題か、どのような能力・態度の育成に重点を置くべきかなどを検討し、自校のキャリア教育の目標を設定することが大切である。

学校が行うキャリア教育が目指すところは、児童が社会生活・職業生活に円滑に移行し、よりよく適応するために必要な能力・態度を育成することにある。各学校が、キャリア教育の計画を立案するに当たっては、まず、このような共通的な目標を踏まえつつ、自校の児童のキャリア発達上の課題、育成すべき能力・態度の明確な把握とその焦点化に基づいて、自校のキャリア教育の目標を設定する必要がある。

キャリア教育の目標を設定する際に留意すべきことには、次のような点が考えられる。

- ① 日常生活や学習の特徴、人間関係形成の様子、集団活動における活動、勤労生産的な活動に対する意識や意欲などを分析するとともに、児童と保護者へのアンケートを実施するなどして、学年ごとの児童の実態を把握し、育成すべき能力・態度について検討する。
- ② 学校評議員や学校評価委員などの意見を聞いたり、児童の生活している地域の方の話を聞いたりしながら、学校の課題及び学校教育に対する地域の思いや願いを把握する。
- ③ 近隣の小学校（通学する中学校区が明確な地域は学区内の小学校）の実態を調べ、児童の実態に即して育成すべき能力・態度について検討する。
- ④ 近隣の中学校におけるキャリア教育の目標（特に中学1年生の目標）を確認するとともに、キャリア発達の目標を参考にして、小学校6年生における到達目標を設定する。
- ⑤ 各学年の児童の実態に基づいて、各学年、または学年団（低学年・中学年・高学年）における目標を設定する。

これは一例であるが、キャリア発達には学校差や地域差も考えられるので、さまざまな角度から実態を分析した上で、各学校・学年に応じた目標を設定することが大切である。また、目標を設定する際には、小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関連する主な目標・内容を把握しておくことが、教育課程への位置付けをする際に参考となる。(p.49～58 参照)

学校の実態に応じたキャリア教育の目標設定の工夫について次に述べる。

(1) 生活環境を考慮した目標設定の工夫

- 商店街や交通網が発達している地域では、商店街の理事や商工会議所の方との連携を強め、日常の生活と学校教育で計画している体験を結びつけることが考えられる。それを踏まえて児童の生活能力を向上させる目標を設定する。また、学年に応じて、視野を広げ、異なった環境で生活している学校との交流を図ることも大切である。
- 一般的に言う都会で生活している児童には、生活上必要になる人間関係を形成する能力や情報活用能力にも特徴が表れることが考えられる。
- 商店街や交通網が未発達地域では、その地域の自然や農林水産業や鉱工業、伝統芸能などを考え、それらを守り生かすという視点からの目標が考えられる。また、学年に応じて、視野を広げ、異なった環境で生活している学校との交流を図ることも大切である。
- 自然環境や産業の特徴が見られる地域では、それらを大切にす意識や態度のほか、他地域との交流など視野を広げる視点、適切な情報活用能力や人間関係を形成する能力などを踏まえた目標が考えられる。

(2) 学校規模を考慮した目標設定の工夫

- 大規模校においては、多種多様な人間関係を形成したり、大きな集団での活動により集団における個の在り方を考えさせたりする場面が数多く考えられる。さらに、競争意識をもたせながら人間としてのたくましさをはぐくむ教育も設定しやすい。その反面、個々の児童にかかわる時間が少ないことも考えられるので、教員集団のチームでサポートするとともに、リーダーを中心とするグループ活動や異年齢集団での活動を工夫する必要がある。
- 小規模校においては、児童の人間関係も固定されがちである。また、競争意識が不足していたり、なれ合いの雰囲気になったりする可能性も高い。そのような小集団に変化と活力を与えるような体験学習や活動を取り入れ、目指す児童像に近づくための目標を設定することも考えられる。また、他の学校との交流の機会を設け、それぞれの学校のよさを生かすことができるよう、目標設定を工夫することも大切である。

(3) 生徒指導上の問題を抱えている学校における目標設定の工夫

- 生徒指導上の問題をもつ児童は、自己の将来像に希望や可能性を感じていない場合が多い。そうした児童に対しては、働きかけの糸口となる活動を通して自分の得意なことや好きなことに気付かせ、自己の役割意識や自尊感情を高めることにより、様々な活動への意欲につなげたい。
- キャリア教育では、学校が保護者や地域、各種専門機関との連携を深めることも大切である。「健やかな子どもの育成」「自分のよさを発揮する子どもの育成」など、共通の目標に向かって情報交換会を行ったり連携を図ったりすることが、一人一人の子どものキャリア発達支援につながっていく。

- 様々な体験活動やその事前・事後の学習での気づきを通して、学ぶ意欲の向上につなげたい。一人一人の子どもの状態を把握し課題を明確にすることが大切であり、場合によっては、個別の目標設定や指導計画を要する場合も考えられる。
- 生徒指導上の問題を改善することが、キャリア教育の推進ととらえることができる場合もある。生徒指導に重点を置きながら少人数指導の推進等に取り組み、学ぶことへの関心を高めていくことができるような目標設定の工夫も考えられる。



3 育成したい能力・態度の設定

自校で育成したい能力や態度の設定に当たっては、それぞれの学校・地域等の実情や、各校の児童の実態を踏まえ、学校ごとに育成しようとする能力や態度の目標を定めることが重要である。

第1章第1節で整理した通り、基礎的・汎用的能力は「人間関係形成・社会形成能力」・「自己理解・自己管理能力」・「課題対応能力」・「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成される。

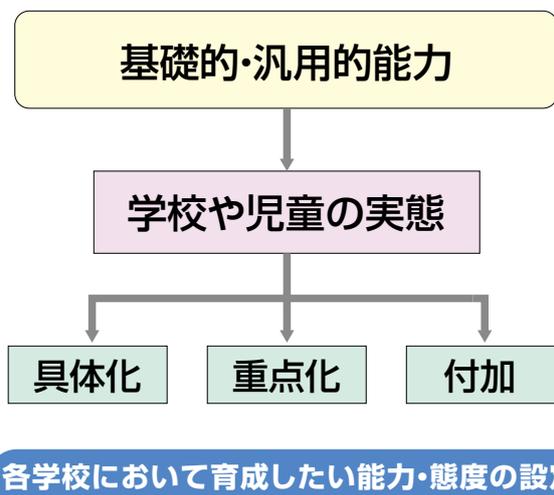
これらの能力は、包括的な能力概念であり、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、学校や地域の特色等によって異なる。この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて、具体的な能力を目標

として設定することが重要である。そのためには、基礎的・汎用的能力の実態を調査し、その結果をもとに、自校で育成すべき能力や態度を重点化していく必要がある。

実態の調査に当たっては児童とともに教職員も同一の調査を行うことが望ましい。また、このような実態調査の結果については、児童と教職員の結果の差を踏まえつつ、それぞれの学校の実情に合わせた取組のための基礎的な資料の一つとして活用することが望まれる。

このように整理した調査結果については、次のような教職員の取組につなげることが効果的であろう。

- ① 分析の際に明らかになった課題を具体化することで育成すべき能力を重点化し、共有する。
- ② ①の課題が解決した「目指す児童の姿」を考え、皆で意見を出し合う。その際、できるだけ授業場面と関連させた姿を各自で考える。
- ③ 各自が考えた姿を付箋に書き出した上で分類・整理し、「目指す児童の姿」を設定する。
- ④ 「目指す児童の姿」が発達の段階に適しているどうかを確認する。



キャリア教育アンケート（高学年用）の一例

◇ これはテストではありません。あなたの日常生活（授業中や放課後、家庭での生活など全般を含みます）の様子を振り返って、当てはまる番号に○を付けてください。
4:いつもしている 3:時々している 2:あまりしていない 1:ほとんどしてしない

①	友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	4	3	2	1
②	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	4	3	2	1
③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	4	3	2	1
④	自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。	4	3	2	1
⑤	気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
⑦	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。	4	3	2	1
⑧	何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	4	3	2	1
⑨	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	4	3	2	1
⑩	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。	4	3	2	1
⑪	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。	4	3	2	1
⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	4	3	2	1

※ アンケートの項目は、「基礎的・汎用的能力（p.14）」の内容や趣旨を十分に踏まえた上で、それぞれの学校の教育目標、児童の実状、学校や地域の特色などを考慮して設定することが大切である。

※※ このようなアンケートは、児童のみならず、教職員や保護者に対して行うことも望まれる。

- ①～③ ……人間関係形成・社会形成能力
- ④～⑥ ……自己理解・自己管理能力
- ⑦～⑨ ……課題対応能力
- ⑩～⑫ ……キャリアプランニング能力

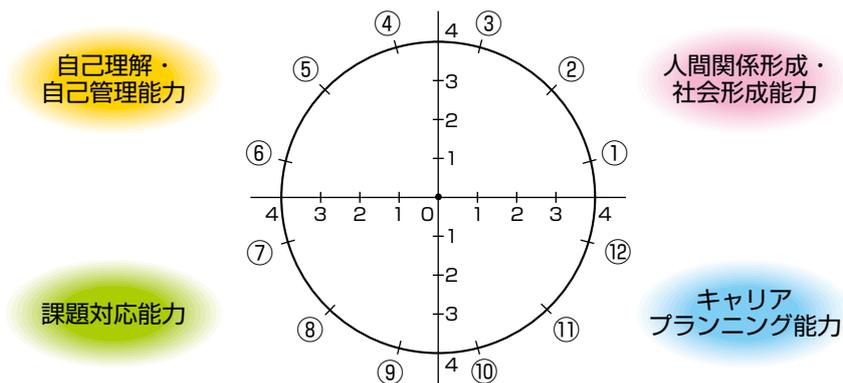
基礎的・汎用的能力と『キャリア教育アンケート(高学年用)の一例』との対応関係

基礎的・汎用的能力	アンケートの項目番号												
	各能力における要素	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
人間関係形成・社会形成	他者の個性を理解する力	○											
	他者に働きかける力		○										
	コミュニケーションスキル		○										
	チームワーク			○									
	リーダーシップ			○									
自己理解・自己管理	自己の役割の理解				○								
	前向きに考える力						○						
	自己の動機付け				○								
	忍耐力						○						
	ストレスマネジメント						○						
	主体的行動							○					
課題対応	情報の理解・選択・処理等							○					
	本質の理解								○				
	原因の追究								○				
	課題発見								○				
	計画立案									○			
	実行力									○			
	評価・改善									○			
キャリアプランニング	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解										○		
	多様性の理解										○		
	将来設計											○	
	選択											○	
	行動・改善												○



各学校で育成したい能力や態度の設定

基礎的・汎用的能力の実態の分析及び課題の把握をするためのシート(例)



4 教育内容・方法の明確化

キャリア教育の全体計画を立案するに当たって、自校の児童に育成すべき能力・態度を、どのような教育内容や方法で育成するのかを明確化しなければならない。

それは、「身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上」という発達課題を、「身近な職業人の働く様子を見学したり、手伝ったりした体験をもつ。」ことなどによって達成するわけであるが、そのために、どのような指導内容・方法があるかを考え、具体的な手立てを含めて立案するということである。

例えば、5・6年生の児童と保護者の学習・体験活動として、午後、児童が家で家事や家業を手伝い、保護者が学校でキャリア教育に関する学習を受ける「半日、親子逆転体験」や、「親子でつづるお手伝い日記」、あるいは家族や身近な大人の1日職場見学・訪問を実施することなどが考えられる。また、「いろいろな職業・産業があることが分かる。」という「能力・態度」の育成を、3・4年生の社会科の学習として計画したり、「身近で働く人々の様子に興味・関心をもつ。」という「能力・態度」の育成を、1・2年生の生活科の体験活動などで計画したりすることも考えられる。

5 各教科等との関連

次に「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を参考にしながら、キャリア教育と各教科等との関係について考えてみよう。本「枠組み(例)」で示されている「人間関係形成能力」は、言葉としては、小学校学習指導要領の特別活動の学級活動の内容(2)ウで示されている「望ましい人間関係の形成」などと共通しており、さらに、「4つの領域」として育成すべき「能力・態度」には、学級活動の内容(1)イで示されている「学級内の組織づくりや仕事の分担処理」のなかで育成してきた能力・態度と重なっている。

このように、本「枠組み(例)」で示されている「4つの領域」や、それを育成するためのキャリア教育の内容は、小学校学習指導要領の特別活動で示されている学級活動や学校行事の「勤労生産・奉仕の行事」の内容と、少なからず共通していることを踏まえ、各学校が計画するキャリア教育の内容については、特別活動の同事項に位置付けることが考えられる。

また、キャリア教育における道徳性の育成にかかわる体験は、道徳教育との関連を意図し内容を工夫することによって、道徳的価値の大切さを自覚し人間としての生き方についての思考を深める上で効果的にはたらく。例えば、4つの領域における「人間関係形成能力」の育成は、「道徳」の学習内容である「主として他の人とのかかわりに関すること」と深くかかわる。このように、キャリア教育における活動は、社会の構成員として求められる思いやりの心、奉仕の精神、公共の福祉、心身の健康、協力・責任、公德心、勤労などにかかわる道徳性の育成に資するものである。そして、それらの内容項目を「道徳の時間」で取り扱うことは、キャリア教育の視点からみても児童の内面的価値の形成を図ることにつながる。

ここでは、「4つの領域」で育成することが期待されている「能力・態度」について主に特別活動、道徳を中心に述べたが、各教科、総合的な学習の時間における学習や活動等なども含め、学校の教育活動全体で進めることが大切であることはいうまでもない。

全体計画の書式については、教育活動の基本的な在り方を内外にわかりやすく示すという趣旨から、できるだけ1枚の用紙に収まるようにしたい。また、盛り込まれた事項相互の関係が容易に把握できるよう、記述や表現に工夫をほどこすことが肝要である。

参考までに、全体計画の一例を次のページに示す。

